

世界が 懸念 していること

2025年3月

世界が懸念していること

イプソスの「世界が懸念していること」調査では、世界29か国で現在最も重要な社会問題や政治問題は何であると考えているのかを調査し、最新のスコアとその背景を10年分のデータをもとに探ります。

このグローバルサマリーレポートでは、世界中で最も懸念されていることを、自国が正しい方向/間違った方向のどちらに進んでいるかという人々の意見と共にご紹介しています。

調査結果のさらなる分析は、
www.ipsos.com
でもご覧いただけます。

詳細については、
Teodros.Gebrekal@ipsos.com
までお問い合わせください。

=Report_1175

主な調査結果

01. インフレが再び最大の懸念事項に

29か国全体で生活費を回答する割合はわずかに増加して33%となり、2024年7月以来の最高値となっています。

02. より多くの米国国民が正しい方向に進んでいると考えている

「自国は正しい方向に向かっている」と考える米国国民の割合は増加しており、現在43%が肯定的な見方をしています。しかし、政治的な分裂は明らかで、共和党支持者の76%が国は正しい方向に進んでいると答えたのに対し、民主党支持者は20%でした。

03. ヨーロッパで高まる紛争の懸念

調査対象となったヨーロッパの9か国すべてで、国家間の軍事的な対立を懸念する人が増加しており、最も懸念しているのはポーランド(32%)です。

04. ヨーロッパでも移民への懸念が高まる

同様に、ヨーロッパ諸国のほとんどで移民管理に関する懸念が高まっており、ポーランド国民の不安レベルは7ポイント上昇して4分の1(24%)となっています。

05. 米国で汚職の懸念が高まる

汚職を指摘する人の割合は4ポイント増加して3人に1人(29%)となり、これは現在、米国にとって2番目に大きな懸念事項となっています(インフレの43%に次ぐ)。これも1年前より11ポイント高い結果です。

06. 医療を懸念するコロンビア国民

コロンビアにおける医療への回答は5ポイント上昇して28%となり、これは昨年同時期より12ポイント高いだけでなく、2021年3月に調査に追加されて以来、同国で記録した最高値でもあります。

世界が懸念していること 2025年3月

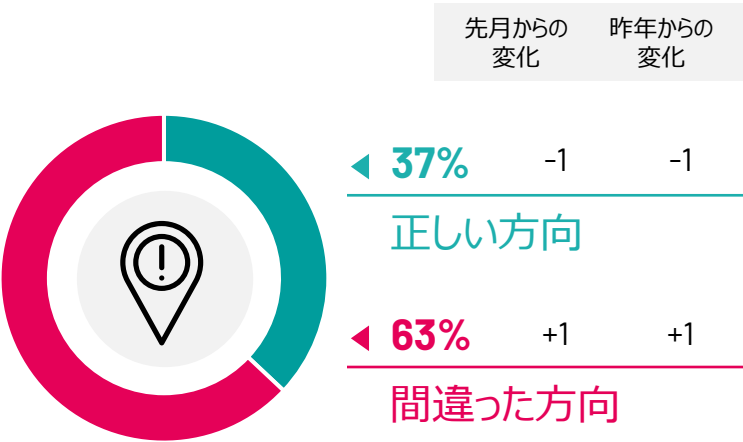
最も懸念していることトップ5

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。

		先月からの 変化	昨年からの 変化
インフレ	33%	+1	-2
犯罪と暴力	32%	=	+2
貧困と社会的不平等	29%	+1	-1
失業率と雇用	28%	+1	+1
汚職、経済的・政治的スキャンダル	26%	-1	=

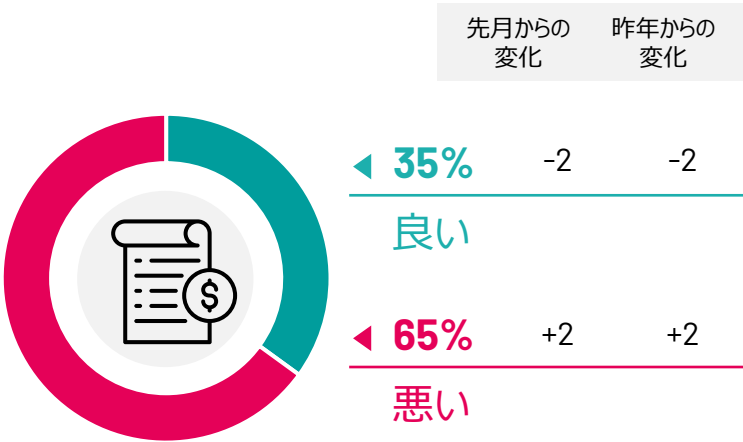
国の状況

Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。



経済の状況

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



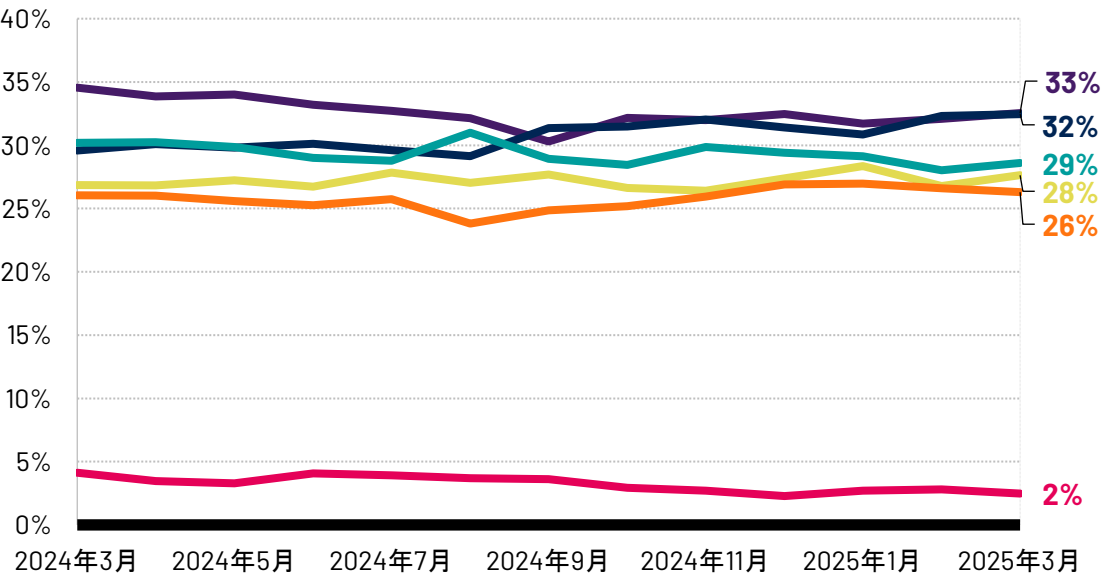
対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月



世界が懸念していること 12か月のトレンド

最も懸念していることトップ5

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。



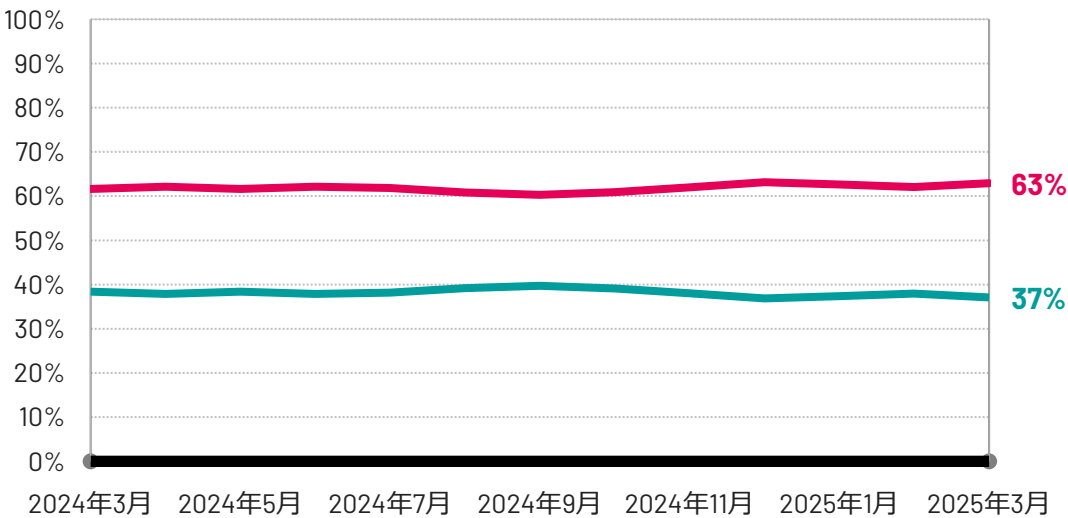
インフレ 犯罪 不平等 失業 汚職 コロナウイルス (Covid-19)

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国の状況

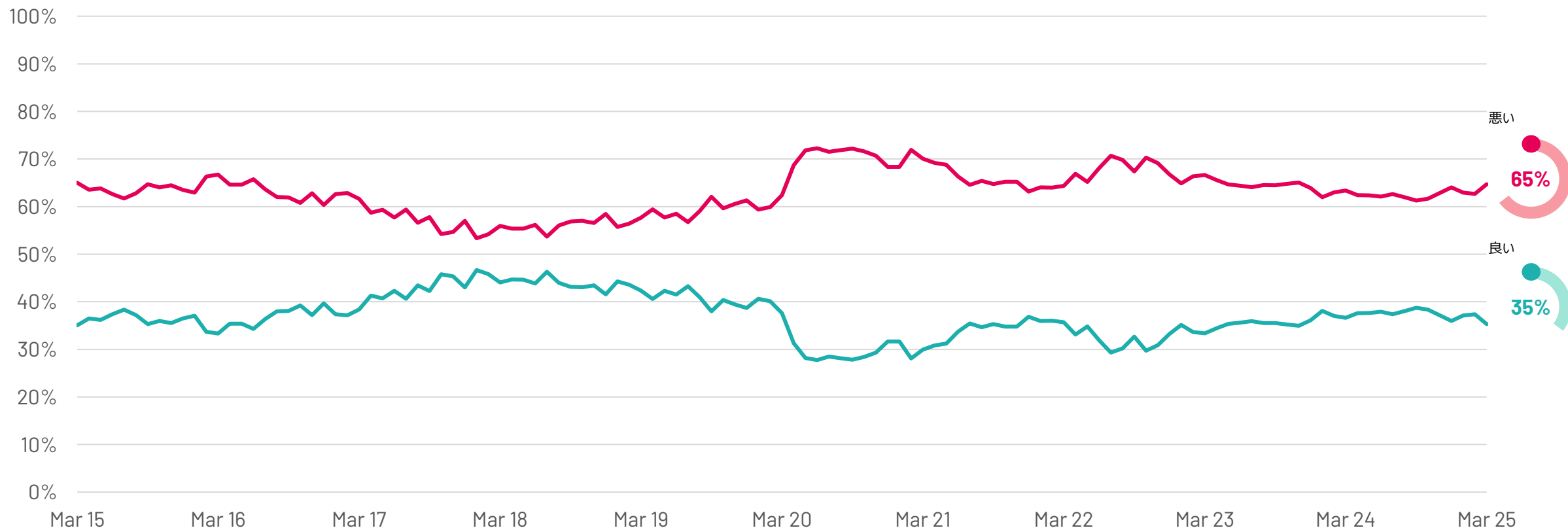
Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていていると思いますか。



正しい方向 間違った方向

世界経済の現状

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。
(「とても良い」または「やや良い」と「とても悪い」または「やや悪い」の割合)



対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

米国フォーカス

米国フォーカス

米国はここ数ヶ月で大きな変化を経験しました。ここでは、現在の状況を説明するために主要な数値を概説します。

2024年11月のトランプ大統領の選挙勝利以来、「自国は正しい方向に向かっている」と答えた米国国民の割合は8ポイント増加して43%となっています。しかし、政治的な分裂には大きな違いが見られます。同じ期間に、物事が正しい方向に進んでいると考える共和党支持者の割合は10%から76%に増加したのに対し、民主党員は62%から20%に減少しました。

さらに、新型コロナウイルス感染症によるインフレの影響は長引いているようです。2022年1月以降、生活費は米国の最大の懸念事項となっており、2023年4月には52%が懸念を表明しました。2024年11月には50%でしたが、1月には39%まで下がり

ました。しかし、2025年には再び上昇し、現在は43%となっています。

経済が「良い」と言う人たちにも同様の傾向が見られます。2024年12月には、経済状況が「良い」と回答した人は41%でした。今月は36%のスコアを記録しました。これは特に、自らを低所得者だと自認する人々の間で感じられます。低所得者の31%が2024年11月に経済は良いと答えましたが、現在はその割合は26%となっています。参考までに、経済指標がパンデミック前の水準に近づくのはまだ見られず、当時(2020年2月)米国国民の67%が経済は「良い」と答えていました。

76%

共和党支持者の76%が米国は正しい方向に進んでいると信じています。
(民主党支持者は20%)

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

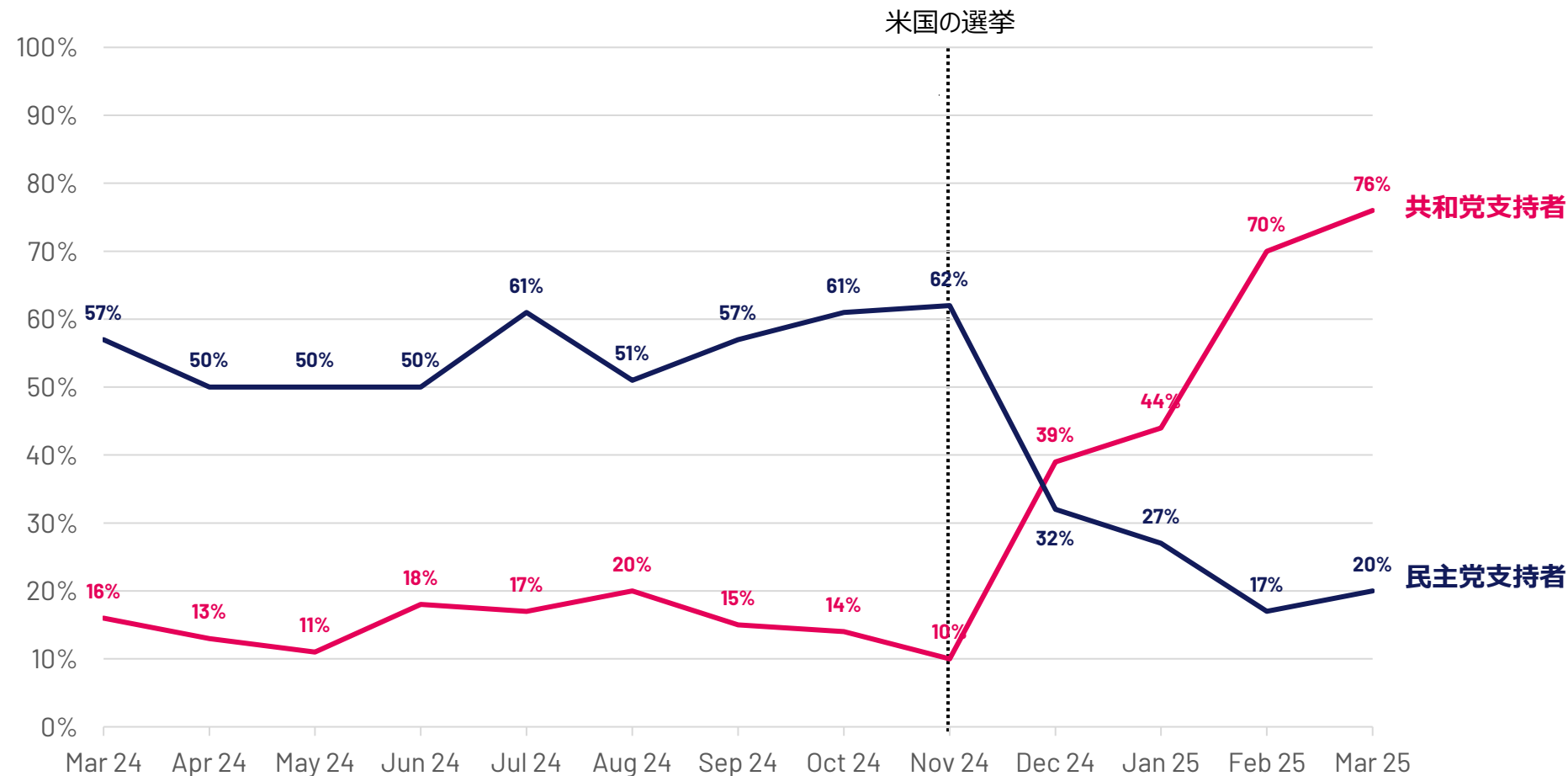
世界の正しい/ 間違った方向

米国の支持政党別スコア
% '正しい方向'

3月ベース: 2025年2月21日から2025年3月7日での、
29か国の16〜74歳の25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: この国は正しい方向に向かっていていると思いますか、それとも間違った方向に進んでいると思いますか?



現在の経済状況

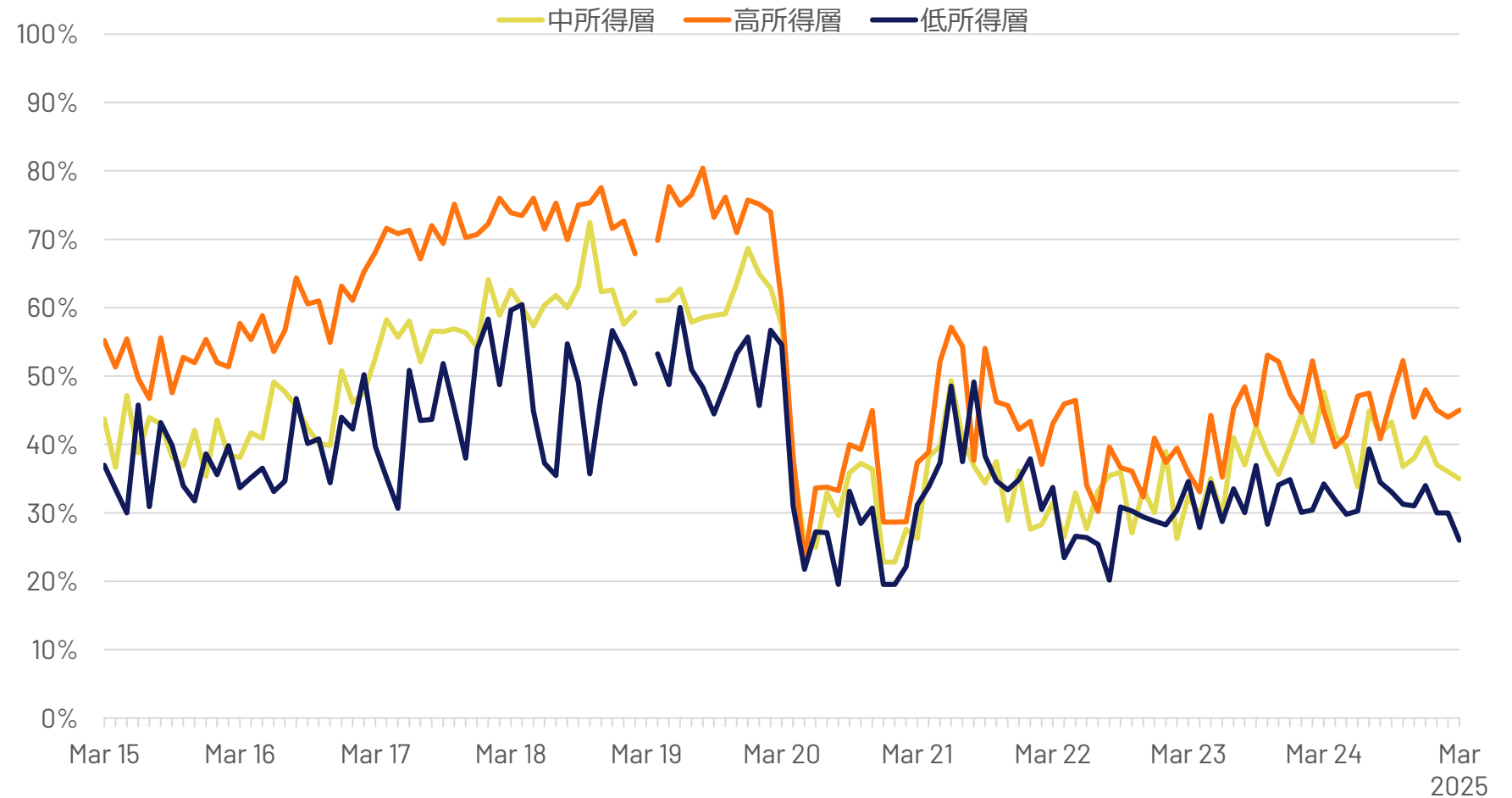
米国の所得水準別

%「とても良い」または「やや良い」

所得水準に関わらず、米国国民はパンデミック以前に比べて米国経済の状況についてあまり楽観的ではありません。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



各国が進む方向

全対象国

正しい方向/ 間違った方向 モニター

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

29か国全体で、「自国は正しい方向に向かっている」と答えた人の割合は先月よりわずかに減少し、10人中6人強(63%)となっています。

1月から先月まで、国が正しい方向に進んでいると考える米国国民の割合は8ポイント上昇し、41%となっています。今月はわずかではあるが再び上昇し、43%となっています。これは、2021年7月の45%以来の米国の最高スコアです。

貿易摩擦が続いているにもかかわらず、カナダの正しい方向スコアは上昇傾向にあり、自国が良くなってきていると答えた人は6ポイント増加して31%となっています。しかし、これは

比較的低いスコアであり、2025年1月には過去10年間で最低のスコア(23%)を記録しました。

同様に、自国が正しい方向に進んでいると考えるオーストラリア国民の割合は6ポイント増加してほぼ半数(48%)となっています。しかし、これも比較的落ち込んでおり、2025年2月のスコア(42%)は2020年4月(同じく42%)以来最低となっています。

43%

の米国国民が「自国は正しい方向に向かっている」と回答しています。

正しい方向/ 間違った方向 モニター

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

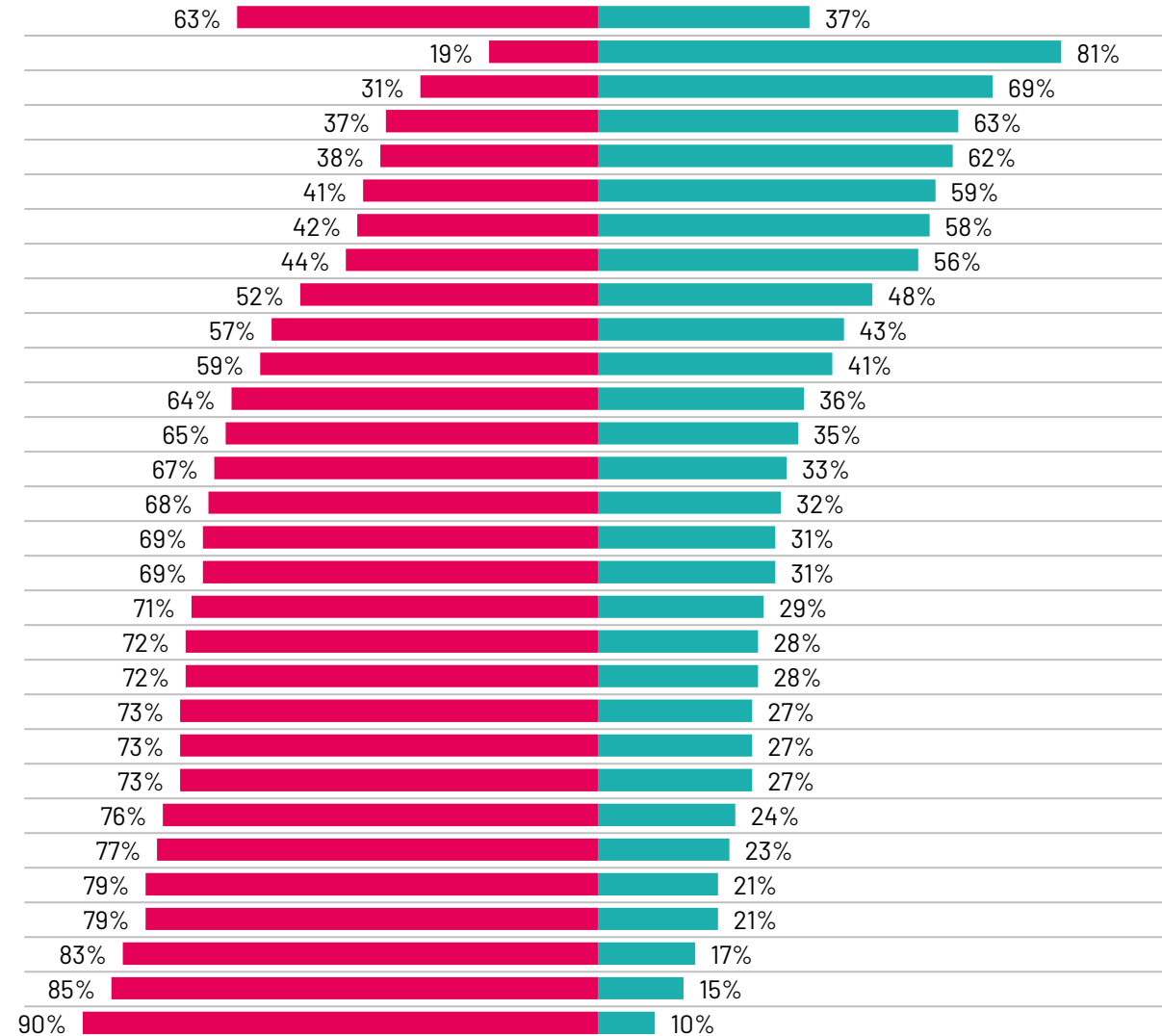
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国

世界
シンガポール
マレーシア
インドネシア
インド
アルゼンチン
メキシコ
タイ
オーストラリア
米国
ポーランド
ベルギー
ブラジル
コロンビア
スペイン
イスラエル
カナダ
英国
南アフリカ
イタリア
チリ
スウェーデン
オランダ
トルコ
ハンガリー
日本
ドイツ
韓国
フランス
ペルー

Q: この国は正しい方向に向かっていると思いますか、それとも間違った方向に進んでいると思いますか? (2025年3月)



正しい方向

間違った方向

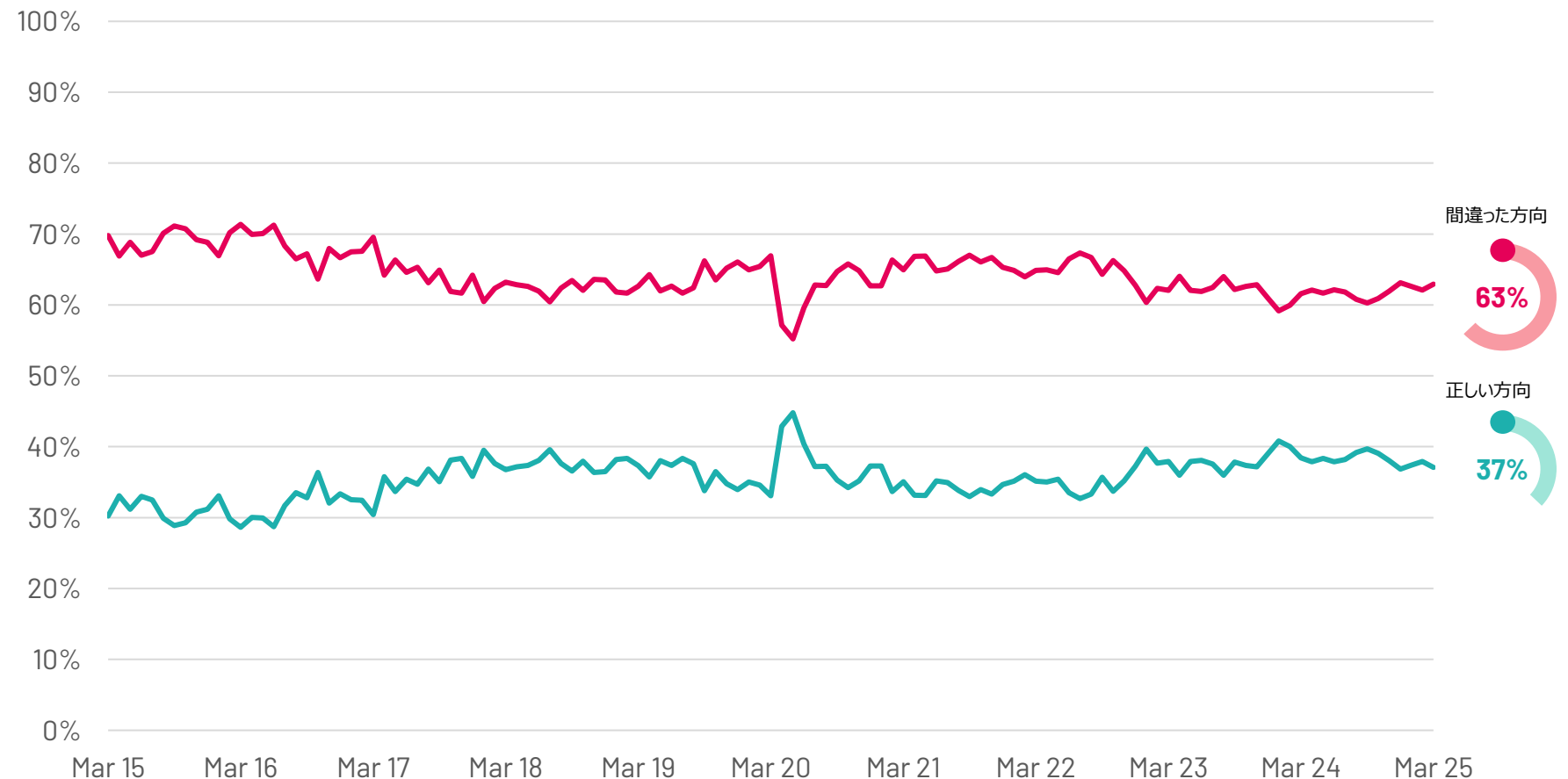
世界の正しい/ 間違った方向

世界各国の平均スコア

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: この国は正しい方向に向かっていていると思いますか、それとも間違った方向に進んでいると思いますか?



世界が懸念していることは？

ランキング上位の懸念事項

世界の懸念事項: 全リスト

29か国全体で、インフレが自国が直面している主要な問題の一つであると答えた人の割合はわずかに増加し、3分の1(33%)となっています。生活費はここ数年、人々の懸念事項であり続けており、今月のスコアは2024年7月以来の最高値(同じく33%)となっています。今月、最大の増加が見られた国は韓国とハンガリーです。

犯罪と暴力は、先月インフレと並んで1位でしたが、現在は18の懸念事項リストの中で2位となっています。これは今月インフレがわずかに上昇したためです。犯罪は依然として32%の人が回答しています。

貧困と社会的不平等、失業に関する懸念はともにわずかに増加し、それぞ

れ3位と4位に留まりましたが、汚職はわずかに減少しました。

今月、国家間の軍事的な対立以外のほとんどの懸念事項は変化していません。ただし、軍事的対立は回答の割合がわずかに増加し、13位から11位に上昇しました。これはヨーロッパで最も顕著で、リストに載っている9か国すべてで増加が見られました。

33%

29か国で33%がインフレへの懸念を表明しています。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

世界の懸念事項: 全リスト

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

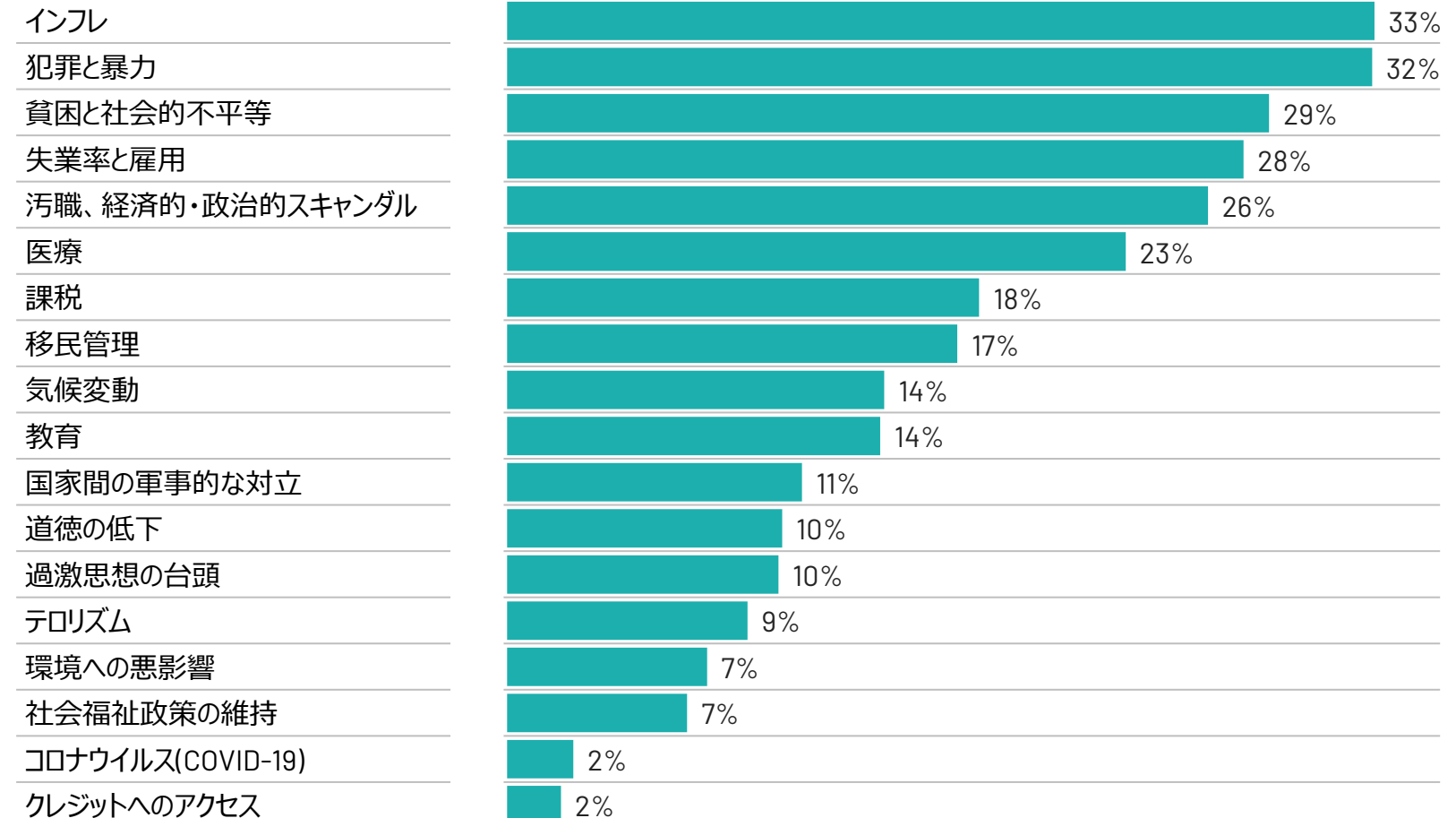
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。

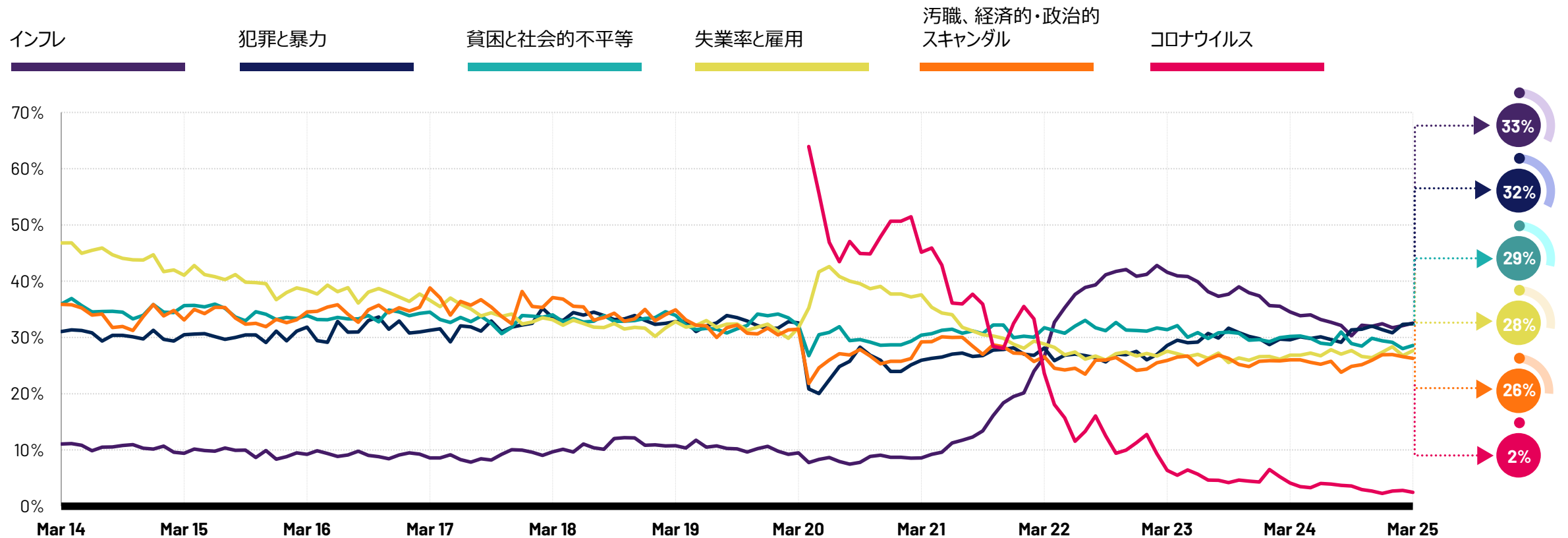
懸念事項

2025年3月の回答割合 (世界各国平均)



世界の懸念: 長期トレンド

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。世界各国平均



対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

1. インフレ

29か国全体では、インフレが懸念事項であると答えた人の割合がわずかに上昇し、2024年7月(同じく3分の1(33%))以来の最高水準となっています。

ハンガリーでは、不安を表明する人が6ポイント上昇し、半数(51%)となっています。このスコアは2024年3月より14ポイント高く、同じく51パーセントだった2023年8月以来の最高値です。

一方、ブラジルの生活費に対する懸念が記録的なレベルに達しています。3ポイント上昇して38%となり、これは1年前より17ポイント高く、過去10年間で最高スコアを記録しまし

た。

インフレが最大の懸念事項となっている国:

- シンガポール(58%) • 米国(43%)
- トルコ(54%) • ポーランド(41%)
- カナダ(48%) • インド(36%)
- オーストラリア(44%)

33%

が、**インフレ**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

1. インフレ

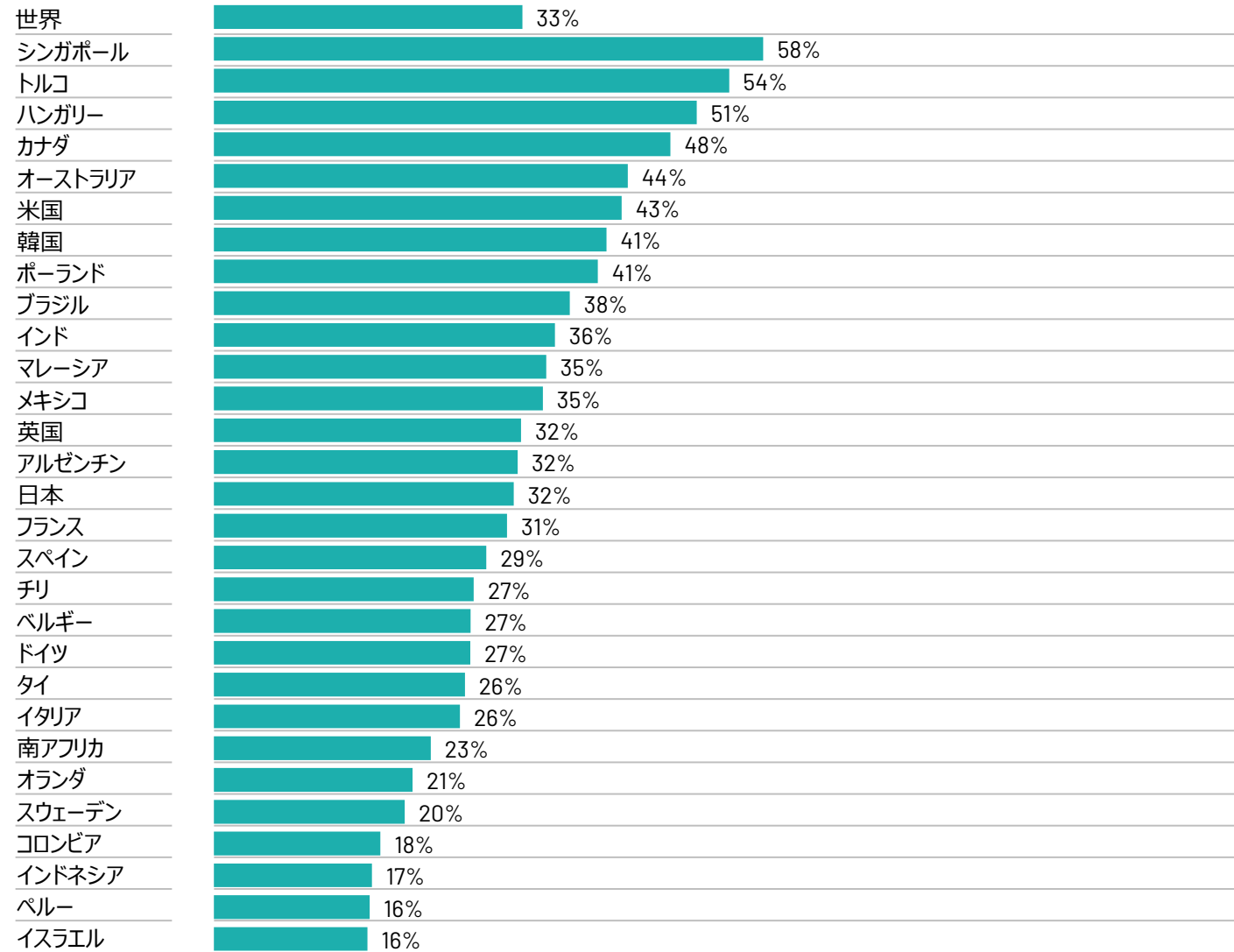
対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国

インフレを懸念していると回答した割合



先月からの
変化

12か月の
変化

+1	-2
+2	+7
=	-1
+6	+14
-1	-5
-6	-4
+1	=
+8	+4
+1	-3
+3	+17
+2	-2
+4	-3
+5	+5
+4	-5
-4	-33
=	+7
-1	-12
=	-3
+2	-2
+1	-2
-4	-8
-5	+2
=	-3
+4	-3
-2	=
+1	-6
-2	-9
-3	-6
=	-3
-2	-1

2. 犯罪と暴力

犯罪と暴力は現在、29か国で第2位となっており、32%の回答者が自国が直面している主要課題の一つとして挙げています。これは、インフレと並んで1位だった先月から変わっていません。

ベルギーでは、不安のレベルが新たな記録に達しました。犯罪を回答する割合は6ポイント増加し、3人に1人(31%)となっています。これは1年前よりわずかに上昇しており、2014年6月も31%だったため、この国では約11年ぶりの高水準となっています。

米国では、犯罪と回答した人の割合が6ポイント低下して22%となり、

4年ぶりの低水準となっています。前回これほど低かったのは2021年3月で、19%でした。

犯罪と暴力が最大の懸念事項となっている国:

- チリ(68%)
- アルゼンチン(52%)
- ペルー(65%)
- ブラジル(43%)
- メキシコ(58%)
- コロンビア(42%)
- スウェーデン(57%)
- フランス(40%)

32%

が、**犯罪と暴力**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

2. 犯罪と暴力

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国	犯罪と暴力を懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	32%	=	+2
チリ	68%	+1	+7
ペルー	65%	-1	+3
メキシコ	58%	-1	+5
スウェーデン	57%	-8	+2
南アフリカ	53%	+1	-2
アルゼンチン	52%	+3	+13
ブラジル	43%	+5	-1
コロンビア	42%	=	-1
フランス	40%	+2	+13
オーストラリア	35%	+2	+6
イスラエル	33%	+1	+6
ドイツ	31%	-5	+8
ベルギー	31%	+6	+3
トルコ	31%	+4	+13
イタリア	30%	-1	+5
タイ	28%	+1	-3
英国	28%	-1	+5
インド	26%	+4	+3
マレーシア	26%	-2	+5
オランダ	24%	-2	-1
米国	22%	-6	-11
日本	19%	-5	+4
カナダ	18%	-1	-1
インドネシア	17%	-4	-2
スペイン	17%	-1	-3
韓国	14%	=	-3
ポーランド	12%	+2	+5
シンガポール	11%	+4	+4
ハンガリー	10%	+3	+2

3. 貧困と社会的 不平等

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

今月、29か国全体で不平等を懸念していると回答した人の割合はわずかに増加し、10人中3人近く(29%)となっています。

貧困と社会的不平等は依然として日本の最大の懸念事項であり、今月は2024年6月以来の最高値に達しています。懸念は3ポイント上昇して36%となり、これは2024年6月のスコアと同じです。

一方、不平等について回答するハンガリー国民の割合は8ポイント減少し、懸念事項であると答えた人は36%となっています。これは今年の同時期よりも8ポイント低く、2023年8月の34%以来の最低値です。

貧困と社会的不平等が最大の懸念事項となっている国:

- 日本 (36%)

29%

が、**貧困と社会的不平等**が自国が直面している重要な問題の一つであると答えています。

3. 貧困と社会的 不平等

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国

貧困と社会的不平等を懸念していると回答した割合

世界

29%

インドネシア

51%

アルゼンチン

43%

トルコ

38%

タイ

37%

日本

36%

ハンガリー

36%

南アフリカ

35%

ブラジル

34%

コロンビア

33%

ドイツ

33%

ペルー

32%

メキシコ

29%

オランダ

29%

イタリア

28%

マレーシア

28%

英国

25%

ベルギー

25%

フランス

25%

カナダ

24%

チリ

24%

スペイン

24%

オーストラリア

24%

イスラエル

24%

韓国

22%

スウェーデン

20%

シンガポール

19%

ポーランド

18%

米国

18%

インド

18%

先月からの
変化

12か月の
変化

+1

-1

+8

+4

+5

+2

=

+6

=

-5

+3

+4

-8

-8

+3

+2

-4

-5

+5

=

+3

-1

+4

+1

+1

-1

=

-7

+2

+1

+2

-3

-3

=

-1

-5

-3

-4

=

-2

+1

-1

+3

-4

-3

-3

+1

+1

+1

-8

-2

-3

-1

-2

-1

=

+2

-1

+3

-1

4. 失業率と雇用

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

今月、29か国全体で失業に対する懸念を表明する人の割合はわずかに増加し、28%となっています。

失業について回答した韓国国民の割合は先月から6ポイント増加し、46%となっています。これは今年の同時期より5ポイント高く、全国で46%を記録した2022年4月以来の最高値です。

失業していると答えた南アフリカ国民の数はわずかに増加し、10人中7人近く(67%)に上っています。他の国に比べると比較的高い水準ではあるものの、南アフリカでは一般的な水準です。2021年4月以来、雇用への懸念が国の主な問題となってい

ます。

失業が最大の懸念事項となっている国:

- 南アフリカ(67%)
- 韓国(46%)
- スペイン(35%)

28%

が、**失業率と雇用**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

4. 失業率と雇用

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国	失業率と雇用を懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	28%	+1	+1
南アフリカ	67%	+3	+2
インドネシア	55%	+7	+13
韓国	46%	+6	+5
シンガポール	46%	+7	+2
アルゼンチン	43%	-3	+5
コロンビア	39%	-1	=
ペルー	35%	-3	-1
スペイン	35%	+7	-6
チリ	33%	+6	=
メキシコ	33%	-2	-2
イタリア	32%	-2	-5
インド	32%	+2	-6
マレーシア	30%	-3	-2
タイ	29%	=	+6
トルコ	25%	+2	+6
スウェーデン	24%	+1	+7
カナダ	22%	+1	+2
ポーランド	21%	+2	+4
オーストラリア	20%	-2	-2
ベルギー	17%	-2	+3
米国	17%	+2	+1
ブラジル	17%	=	-7
ハンガリー	16%	=	-3
日本	16%	=	-1
英国	14%	=	+2
フランス	12%	-3	+3
イスラエル	10%	=	-4
ドイツ	9%	-2	-1
オランダ	6%	+2	-1

5. 汚職、経済的・政治的スキャンダル

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

29か国全体で、汚職を回答する割合はわずかに4分の1(26%)に減少しました。これは昨年同時期と同じレベルです。

米国では汚職に対する懸念が新たな高みに達しました。今月汚職を挙げた人の割合は4ポイント増加して3人に1人(29%)となり、2024年3月より11ポイント高くなっています。他の国々に比べると比較的低いものの、これは現在米国にとって2番目に大きな懸念事項となっています(インフレの43%に次ぐ)。前回この高さになったのは2021年2月で、その時も10人中3人(30%)でした。

汚職、経済的・政治的スキャンダルが最大の懸念事項となっている国:

- インドネシア(67%)
- マレーシア(54%)
- タイ(39%)

26%

が、**汚職、経済的・政治的スキャンダル**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

5. 汚職、経済的・政治的スキャンダル

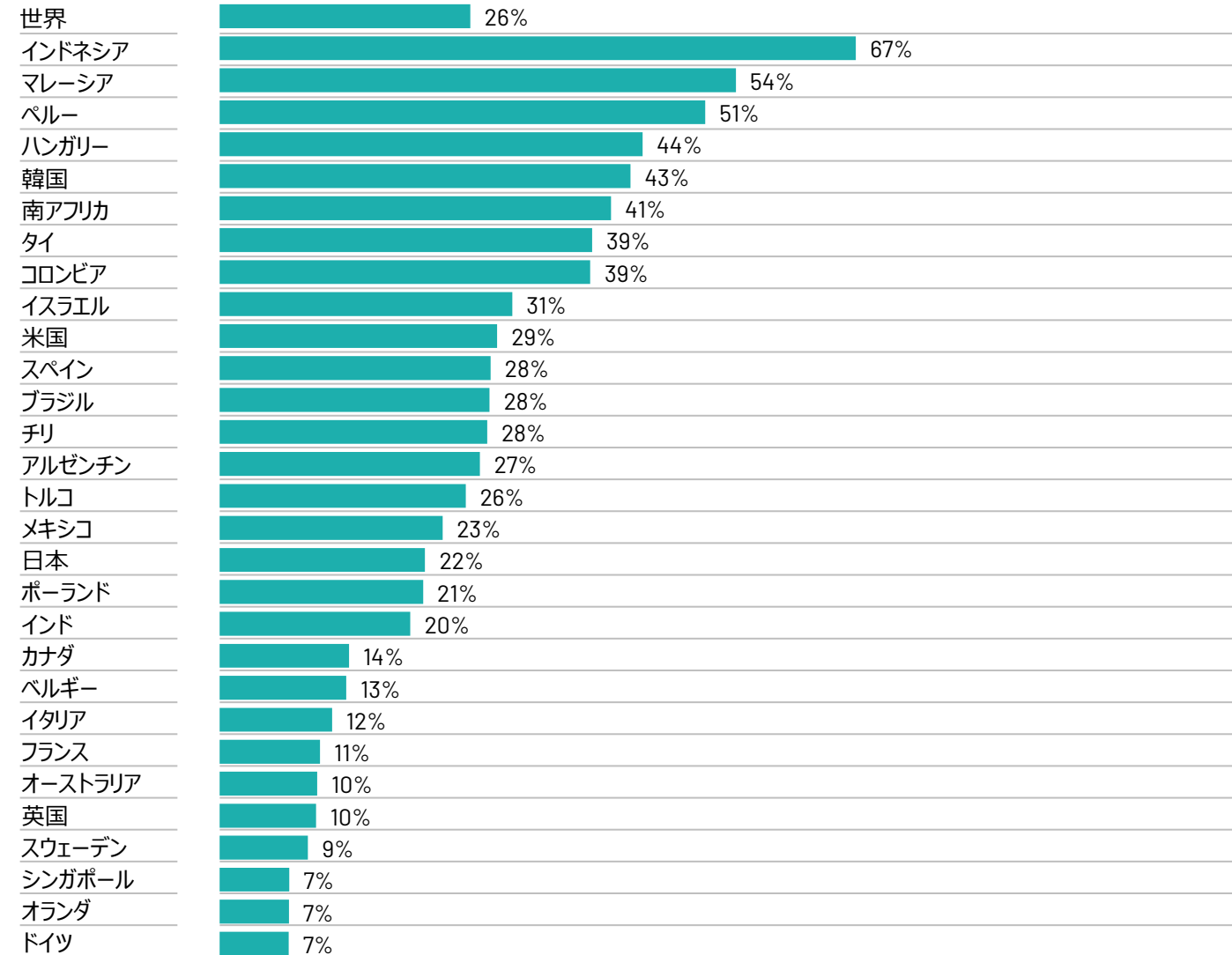
対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国

汚職、経済的・政治的スキャンダルを懸念していると回答した割合



先月からの
変化

12か月の
変化

-1	=
+3	+12
+7	+4
+2	=
-4	-8
-5	+12
-6	-6
+1	-4
+5	+4
=	+4
+4	+11
-6	+4
-1	+1
-2	-3
+3	+3
-1	+3
+1	-2
=	-10
-8	-6
-1	-4
+1	+2
-2	-2
=	=
+2	+2
-1	-1
-2	-6
-2	=
+2	-1
-3	-2
=	-2

6. 医療

29か国全体で、医療が直面している問題の一つであると答えた人の割合はわずかに減少し、23%となっています。

オーストラリアでは、医療に対する懸念を表明する割合が3ポイント上昇し、3分の1(34%)となっています。これは2024年3月よりも3ポイント高く、2023年9月の35%以来の最高スコアです。

コロンビアでも医療を挙げる人が増えています。今月、その割合は5ポイント上昇して28%となり、これは昨年の同時期より12ポイント高いだけでなく、2021年3月に調査対象に加えて以来、コロンビアで記録した

最高値でもあります。

医療が最大の懸念事項となっている国:

- ハンガリー(63%)
- オランダ(32%)
- 英国(42%)
- イタリア(37%)

23%

が、**医療**は自国が直面している重要な課題の一つだと答えています。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

6. 医療

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国

医療を懸念していると回答した割合

世界

23%

ハンガリー

63%

カナダ

46%

英国

42%

ポーランド

39%

イタリア

37%

オーストラリア

34%

スペイン

33%

ブラジル

32%

オランダ

32%

コロンビア

28%

シンガポール

28%

フランス

26%

米国

23%

メキシコ

19%

ベルギー

19%

アルゼンチン

16%

ドイツ

16%

スウェーデン

16%

南アフリカ

16%

ペルー

15%

日本

14%

インド

14%

韓国

13%

チリ

12%

タイ

10%

マレーシア

10%

イスラエル

8%

インドネシア

7%

トルコ

5%

先月からの
変化

12か月の
変化

-1

+1

-3

-1

+6

=

+2

-2

=

+8

-1

+6

+3

+3

=

+1

-6

-5

-1

+3

+5

+12

-7

=

-1

+1

-1

-3

+2

+3

-6

=

=

+7

-1

+1

-8

-8

=

+3

-5

-3

+4

+5

+1

=

-1

-9

-3

-2

-2

=

=

+3

=

+1

-1

+2

-1

+2

8. 移民管理

今月、29か国における移民管理に関する懸念は17%のまま変わりありません。

ヨーロッパ全土で、移民管理に対する懸念が高まっています。ポーランドでは、懸念を表明した人が前月比7ポイント上昇し、最も大きな上昇となっています(24%)。これは1年前より10ポイント高い数字です。同様に、オランダ(27%)とスペイン(26%)では、移民について回答する割合が5ポイント上昇しています。しかし、2024年3月と比較すると、オランダでは8ポイント低下し、スペインでは7ポイント上昇しています。

さらに、ベルギーとフランスでも、不安

はそれぞれ25%と27%と、わずかながらも増加しました。

移民管理が最大の懸念事項となっている国:

- ドイツ(41%)

17%

が、**移民管理**は自国が直面している重要な課題の一つだと答えています。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

8. 移民管理

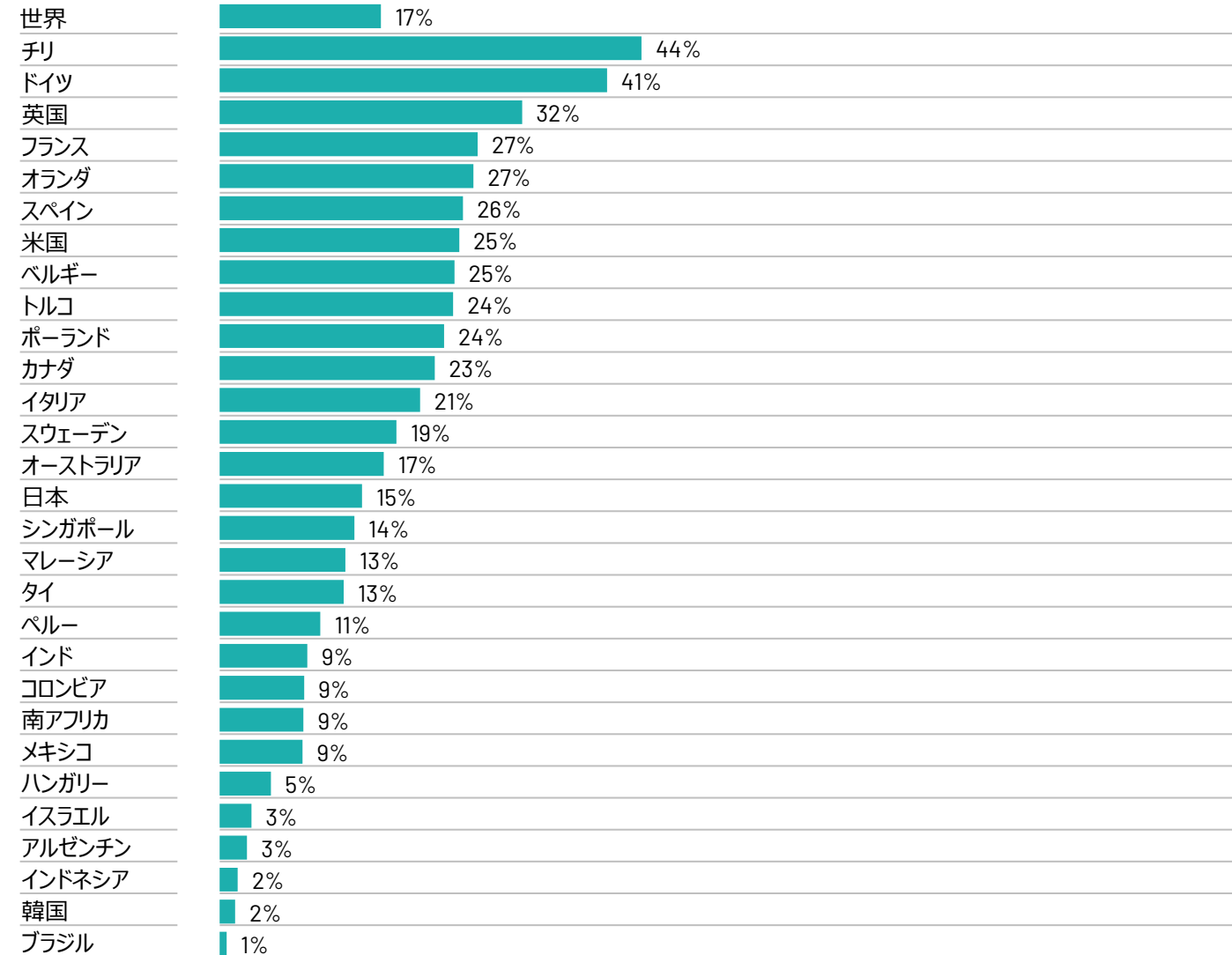
対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国

移民管理を懸念していると回答した割合



先月からの変化 12か月の変化

=	+1
-5	+3
-3	+8
=	+3
+3	+1
+5	-8
+5	+7
-2	-4
+2	-6
-1	-21
+7	+10
-5	+3
=	+3
+2	+2
+1	+2
+2	+6
+1	+4
+1	-1
+5	+10
-1	-1
-2	+3
-1	-1
-5	-3
-6	+3
+2	=
-2	-1
=	=
=	=
=	=
=	=

9. 気候変動

調査対象のすべての国において、気候変動に対する懸念を表明する人の割合は今月わずかに減少し、14%となっています。これは1年前よりも3ポイント低い数字です。

米国だけが前月比で大きな変化が見られ、気候変動を回答した米国国民の割合も6ポイント減少して14%となっています。これは米国にとって5年間で最低のスコアであり、2020年4月に14%を記録しました。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

気候変動が最大の懸念事項となっている国:

なし

14%

が、**気候変動**は自国が直面している重要な課題の一つだと答えています。

9. 気候変動

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国	気候変動を懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	14%	-1	-3
シンガポール	24%	-4	+2
日本	23%	-3	-4
タイ	22%	-4	-1
オーストラリア	22%	=	-5
ドイツ	22%	+3	-5
オランダ	22%	=	-5
フランス	20%	+4	-4
スペイン	18%	-1	+2
ベルギー	17%	-2	-2
スウェーデン	17%	+2	-2
カナダ	17%	+1	-7
イタリア	16%	-2	-7
韓国	16%	=	-4
ブラジル	15%	+3	+3
英国	15%	-3	-4
メキシコ	15%	+3	-7
ポーランド	14%	-2	-4
米国	14%	-6	-3
インド	11%	=	-1
インドネシア	11%	-4	-12
マレーシア	10%	+1	-1
南アフリカ	9%	+1	-2
ハンガリー	8%	+3	+2
コロンビア	8%	-3	-6
チリ	7%	+2	-1
ペルー	7%	-1	-1
トルコ	7%	-3	+2
アルゼンチン	3%	=	-1
イスラエル	1%	-1	-1

11. 国家間の軍事的な対立

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

今月、軍事的な対立は29か国で回答数がわずかに増加し、懸念事項ランキングの13位から11位に順位を上げました。

懸念の高まりはヨーロッパ全土で見られ、調査対象のヨーロッパの9か国すべてで増加が見られます。最も増加したのはドイツで、前月より11ポイント増加して27%となっています。これは2023年3月の28%以来の高水準です。懸念が10ポイント上昇した後、スウェーデン国民がこれについて回答した割合も27%となっています。これは昨年と同時期より11ポイント高い数字です。

同様に、オランダ(25%)は8ポイント上昇、フランス(15%)は6ポイント上昇、ポーランド(32%)は5ポイント上昇、ベルギ

ー(18%)とイタリア(14%)は4ポイント上昇、英国(15%)とスペイン(9%)はわずかに上昇しています。

国家間の軍事的な対立が最大の懸念事項となっている国々:
なし

11%

が、**国家間の軍事的な対立**が自国が直面している重要な問題の一つであると答えています。

11. 国家間の軍事的な対立

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

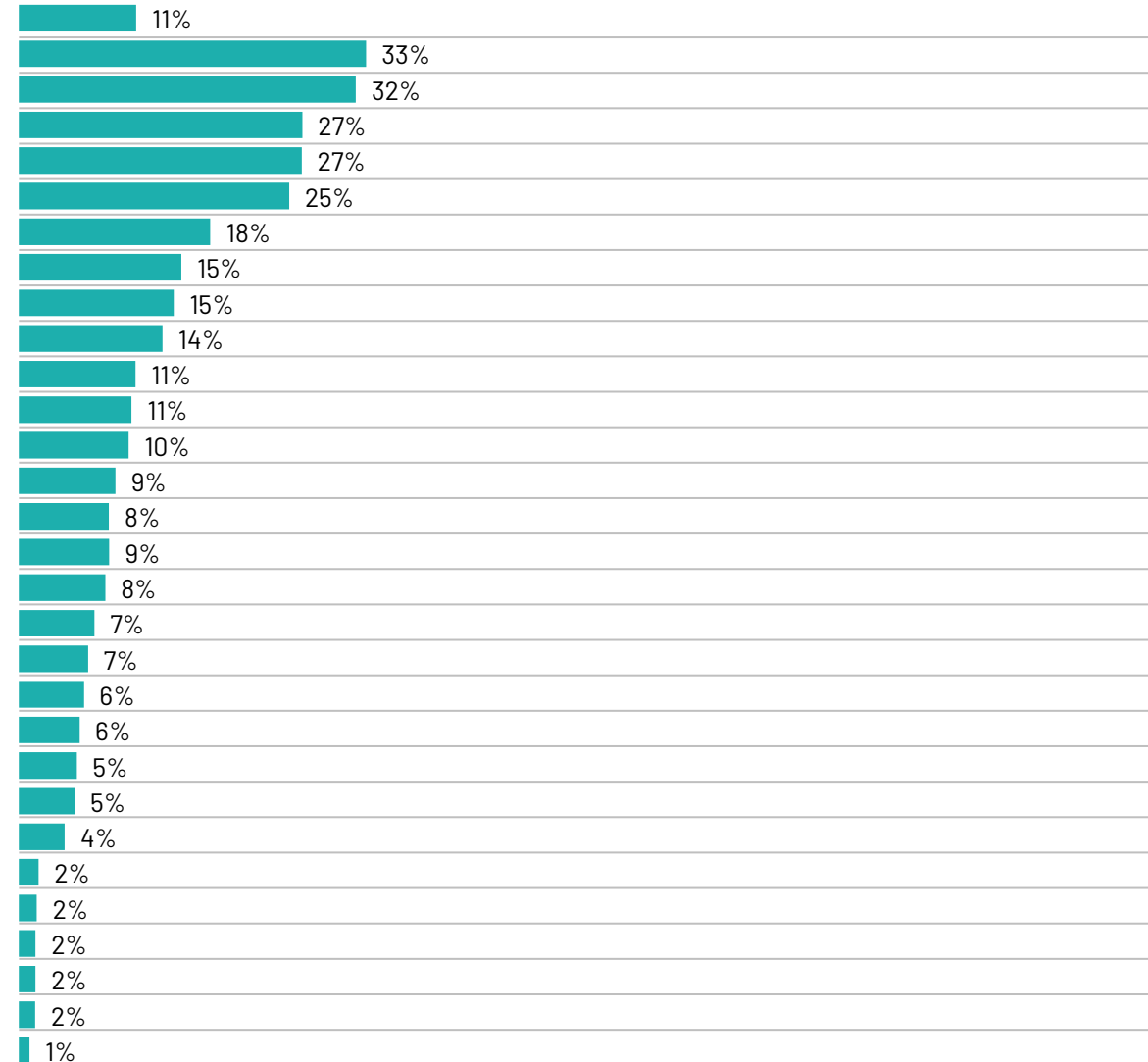
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国

国家間の軍事的な対立を懸念していると回答した割合

世界
イスラエル
ポーランド
ドイツ
スウェーデン
オランダ
ベルギー
フランス
英国
イタリア
オーストラリア
日本
米国
スペイン
タイ
韓国
カナダ
インド
シンガポール
コロンビア
ハンガリー
南アフリカ
マレーシア
メキシコ
ペルー
トルコ
チリ
ブラジル
アルゼンチン
インドネシア



先月からの 変化	12か月の 変化
+2	+1
+4	-12
+5	-2
+11	+1
+10	+11
+8	+6
+4	+4
+6	=
+2	+1
+4	+1
+5	+2
+1	-4
+1	-2
+2	+2
+3	+3
+1	-3
=	+3
-4	+1
-1	+2
-3	+3
+1	+2
+2	+4
=	+2
-4	+2
+1	=
-1	+1
=	=
-1	-1
-1	+1
-2	-2

17. コロナウイルス (COVID-19)

29か国全体で、新型コロナウイルス感染症への不安を表明する人の割合はわずかに2%に減少しました。

パンデミック発生から5年が経ち、新型コロナウイルスは、当社の調査で記録された最大の問題(2020年4月に64%が回答から、信用へのアクセスと並んで最下位に低下した。

しかし、その影響は今日でもまだ感じられると言えるでしょう。不安が和らぎ始めると同時に、最も長く続いている最大の懸念であるインフレが現れました。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

2%

が、**コロナウイルス(COVID-19)**は自国が直面している重要な問題の一つであると答えています。

コロナウイルス(COVID-19)が最大の懸念事項となっている国：

なし

17. コロナウイルス (COVID-19)

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

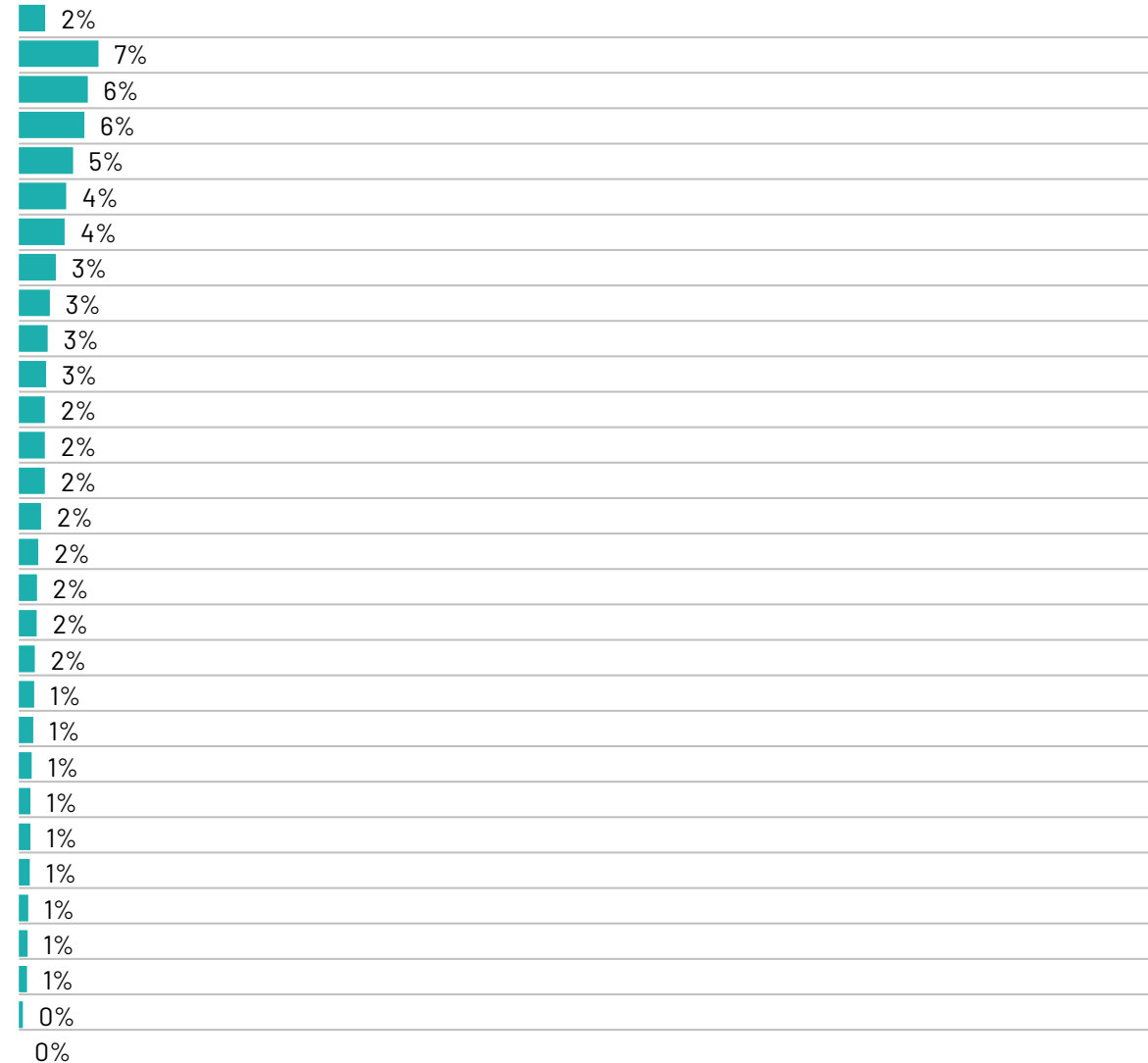
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国

コロナウイルス(COVID-19)を懸念していると回答した割合

世界
タイ
インド
マレーシア
シンガポール
ブラジル
日本
オーストラリア
メキシコ
韓国
トルコ
インドネシア
ペルー
ベルギー
米国
ハンガリー
ポーランド
英国
カナダ
南アフリカ
コロンビア
オランダ
イスラエル
スペイン
イタリア
フランス
ドイツ
スウェーデン
チリ
アルゼンチン



先月からの 変化	12か月の 変化
-1	-2
-2	-1
=	-3
-3	-4
=	-13
+1	-2
-1	-2
+1	-3
-2	-5
+1	+1
=	=
-1	-3
-1	=
=	+1
-1	-3
+1	=
=	=
=	=
=	-2
-1	=
=	-1
=	=
-2	-1
=	-2
=	-1
-1	-1
+1	-2
=	=
-2	-2
-1	-1

経済フォーカス

自国の経済状況

イプソスの**世界が懸念していること調査**と並び、毎月実施されている**世界消費者信頼感調査**は、29カ国の一般消費者を対象に、国と個人のレベルにおける経済と金融について調査を実施しています。

以下のセクションでは、このデータの一部を用いて、今月の「世界が懸念していること調査」レポートの背景を説明しています。これは、国民が自国の現在の経済情勢をどのように評価しているかを示すものです。

詳細については、
Emilios.Louca@ipsos.com
までお問い合わせください。

現在の経済状況

29か国全体で、3分の1強(35%)の人が自国の経済状況は「良い」と答えています。

過半数がこの見解を持っているのは、インド(81%)、シンガポール(79%)、マレーシア(67%)、オランダ(59%)のわずか4か国です。

韓国(9%)、日本(11%)、フランス(12%)はいずれも最下位に位置し、自国の現在の経済が良いと回答した人は5人に1人未満です。

マレーシアの好景気スコアは昨年同時期より最も上昇し、22ポイント増加して67%となっています。一方、インドネシアでは同時期に18ポイント

低下し、現在は42%となっています。

経済を最も懸念している上位国:

- **韓国** (91%が「悪い」状態であると回答)
- **日本** (89%)
- **フランス** (88%)
- **ハンガリー** (80%)

22pts

マレーシアの好景気スコアは昨年の同時期より22ポイント上昇しています。



対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

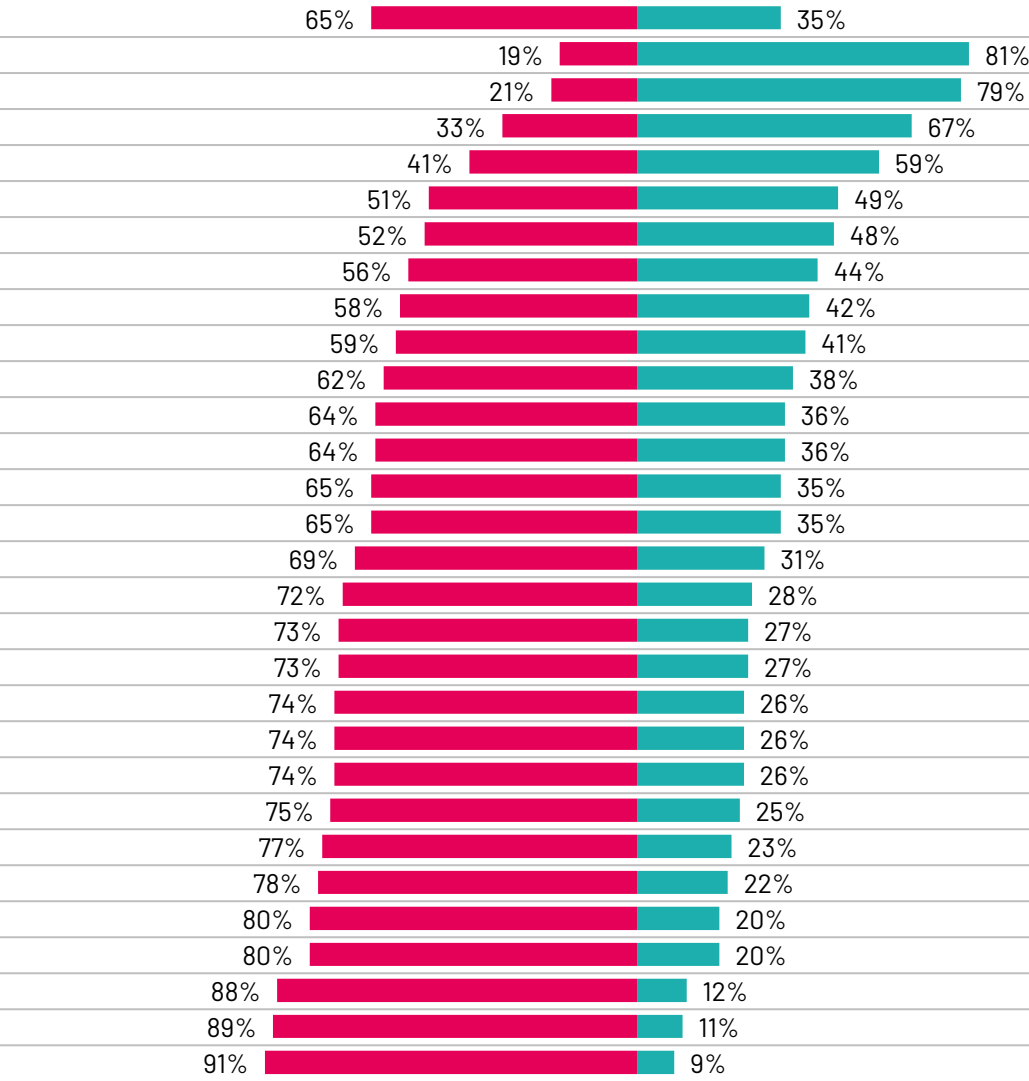
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

現在の経済状況

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年3月

国
世界
インド
シンガポール
マレーシア
オランダ
メキシコ
オーストラリア
タイ
インドネシア
ポーランド
スウェーデン
米国
スペイン
イスラエル
ベルギー
アルゼンチン
イタリア
チリ
ブラジル
南アフリカ
ドイツ
カナダ
コロンビア
トルコ
英国
ペルー
ハンガリー
フランス
日本
韓国

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



良い 悪い

先月からの 変化	12か月の 変化
-2	-2
+4	-1
-1	+2
-2	+22
+1	+2
=	-1
+5	+1
-3	-1
-14	-18
-4	-1
-3	+3
-1	-5
-3	=
+1	-9
-8	-1
-3	+21
-3	-1
-6	-2
-2	-14
-2	+2
+1	-11
-2	-6
-8	=
+1	-3
=	+1
-6	+3
+3	=
=	-11
-1	-4
-2	-7



現在の経済状況

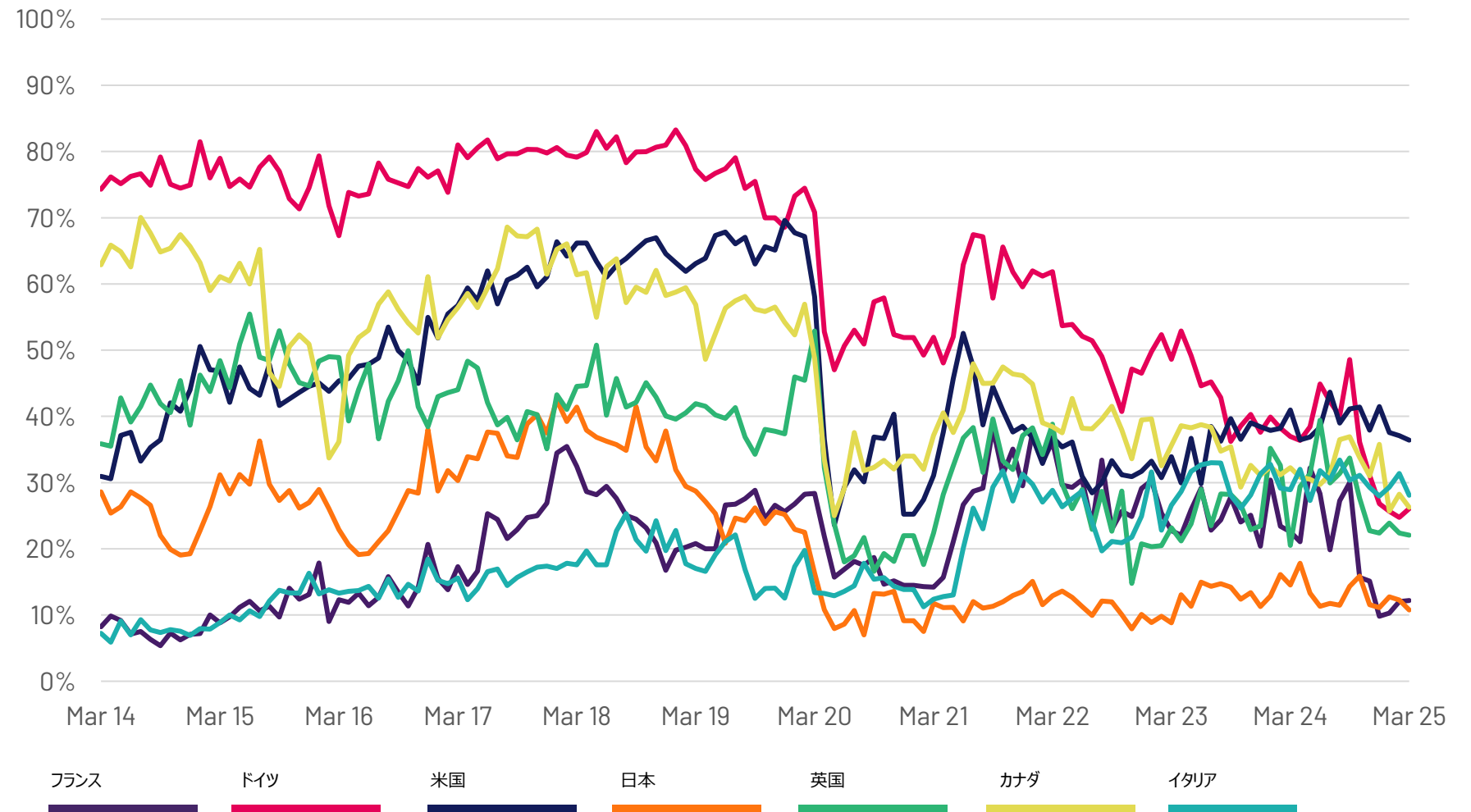
G7

%「とても良い」または「やや良い」

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

ブラジル

%「とても良い」または「やや良い」

ブラジルの好景気スコアは2022年9月
以来の最低点(同じく27%)に達しまし
た。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加
29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバル
スコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

カナダ

%「とても良い」または「やや良い」

カナダの好景気スコアは、過去最低スコア(2020年5月の25%)からわずか1ポイント差です。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

フランス

%「とても良い」または「やや良い」

フランスの好景気スコアは2024年10月に低下し、それ以来回復していません。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

ドイツ

%「とても良い」または「やや良い」

ドイツの好景気スコアは先月から1ポイント上昇したものの、依然として過去最低水準にとどまっています。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

英国

%「とても良い」または「やや良い」

英国の好景気スコアは昨年の同時期より11ポイント低下しています。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

イタリア

%「とても良い」または「やや良い」

イタリアの好景気スコアは他の国と比べると低いものの、過去のスコアと比較すると安定しており高い水準を維持しています。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

日本

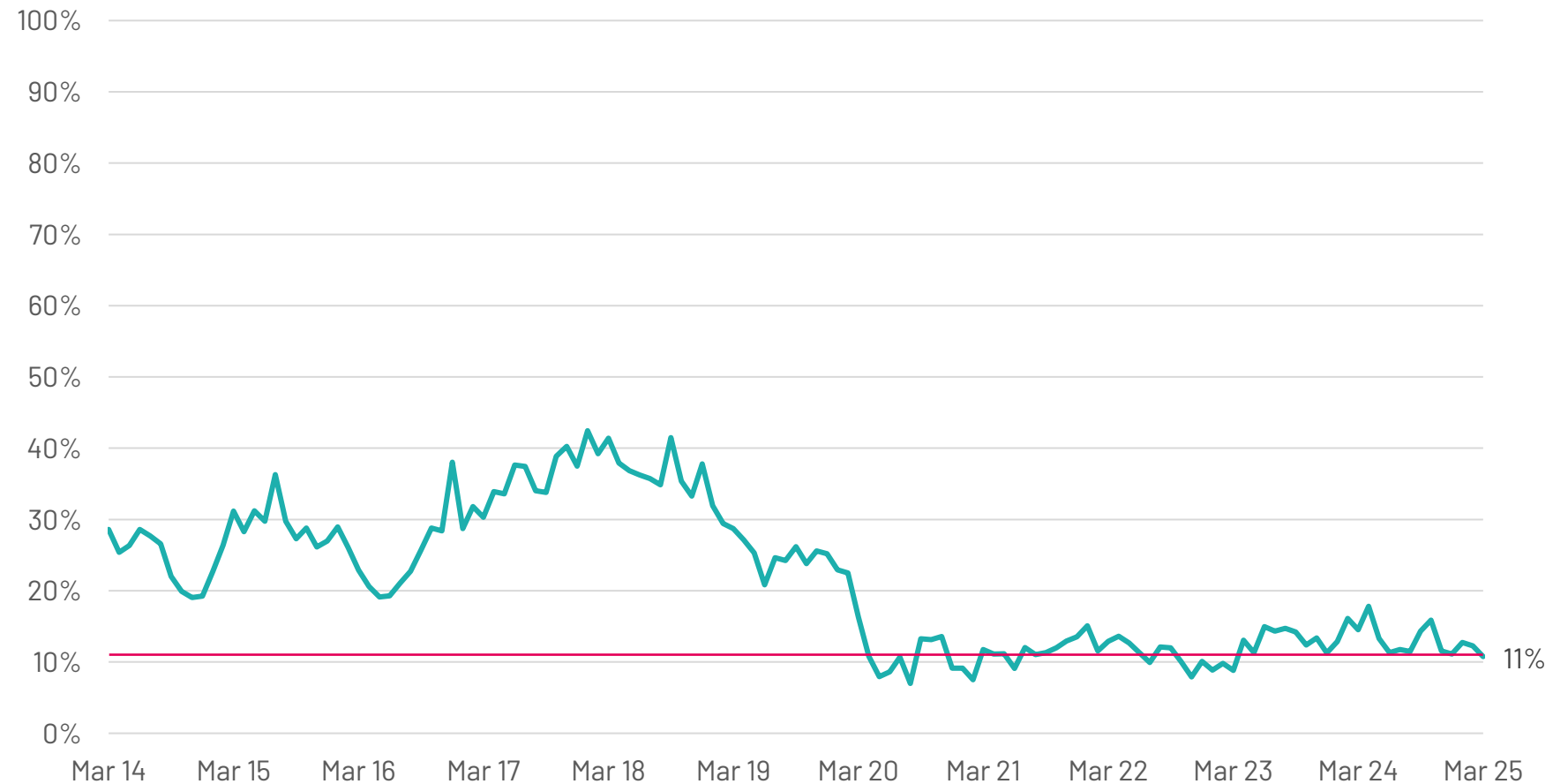
%「とても良い」または「やや良い」

日本の好景気スコアは今月さらに1ポイント下落しました。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

マレーシア

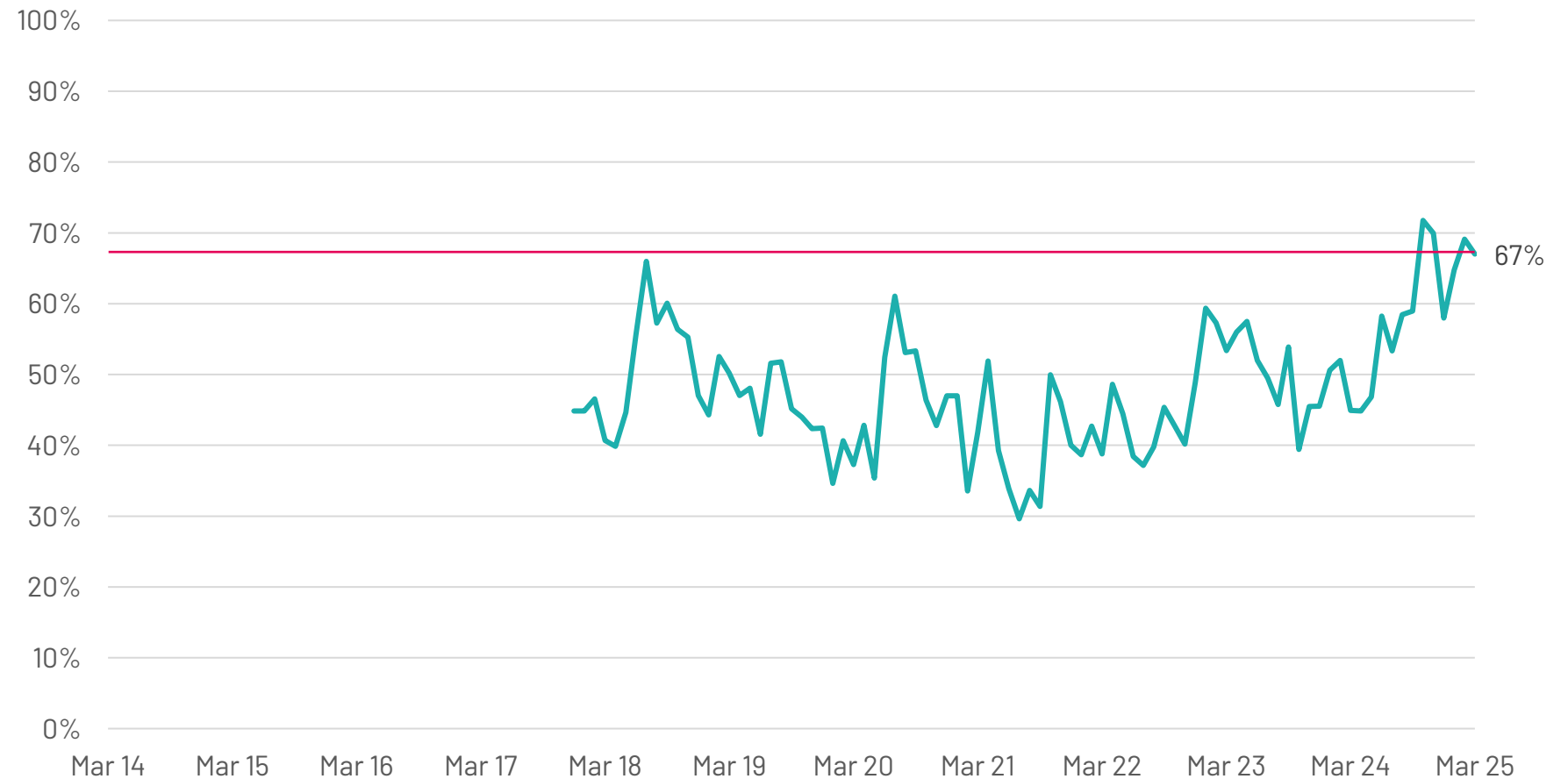
%「とても良い」または「やや良い」

マレーシアの好景気スコアは、過去12か月間で調査対象国の中で最も上昇し、22ポイント上昇して67%となっています。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

米国

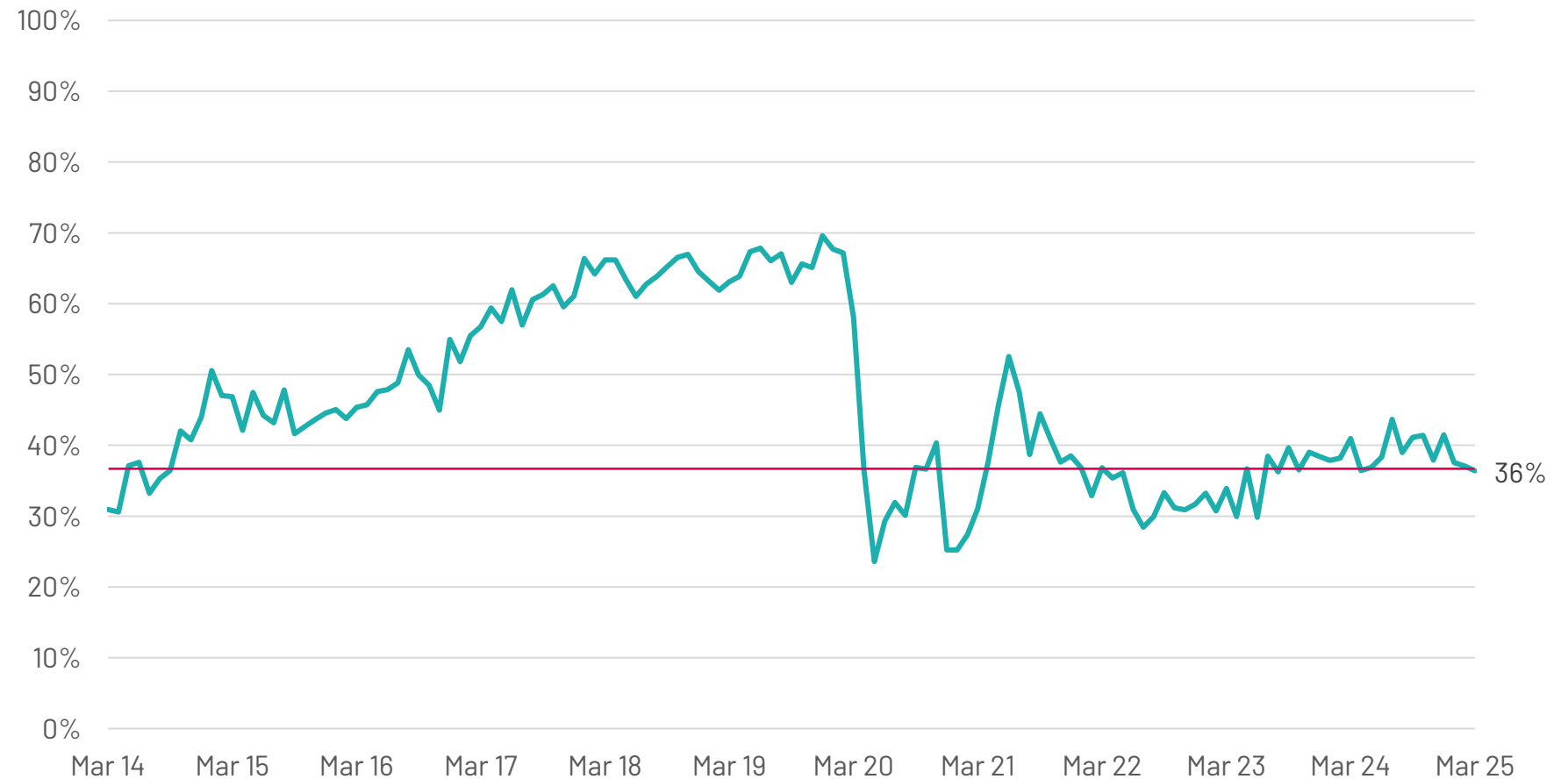
%「とても良い」または「やや良い」

2021年6月の一時的な急上昇(53%)を除き、米国の好景気スコアは、新型コロナウイルス感染症のパンデミック以前(2020年3月の58%)以来50%を超えていません。

対象: 2025年2月21日から2025年3月7日までの、参加29か国の16歳から74歳までの25,231人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



調査手法

この29か国グローバルアドバイザー調査は、イプソスオンラインパネルシステムを通じて、2025年2月21日から2025年3月7日の間に、カナダ、イスラエル、マレーシア、南アフリカ、トルコ、米国の18～74歳、インドネシアとタイの20～74歳、シンガポールの21～74歳、その他の国の16～74歳の25,231人を対象に実施されました。

「世界各国平均」は、調査が実施されたすべての国における平均結果を反映しています。各国の人口規模に合わせて調整されておらず、全体的な結果を示すことを意図したものではありません。

サンプルは、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、英国、イタリア、日本、スペイン、スウェーデン、米国の各国で約1,000人以上、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ハンガリー、インドネシア、イスラエル、マレーシア、メキシコ、オランダ、ペルー、ポーランド、シンガポール、南アフリカ、韓国、タイ、トルコの各国で約500人以上で構成されています。

インドのサンプルは約2,200人で構成され、そのうち約1,800人が対面でインタビューを受け、400人がオンラインでインタビューを受けました。

アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、英国、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ポーランド、韓国、スペイン、スウェーデン、米国のサンプルは、これらの国の75歳未満の一般成人人口の代表として考えることができます。

ブラジル、チリ、コロンビア、インド、インドネシア、マレーシア、メキシコ、ペルー、シンガポール、南アフリカ、タイ、トルコのサンプルは、一般人口よりも都市部に住み、教育水準が高く、裕福です。これらの市場の調査結果は、これらの人口のより「コネクテッド」なセグメントの見解を反映していると見なされるべきです。

インドのサンプルは、都市人口の大部分、つまり大都市圏の社会経済階級A、B、Cと、4つのゾーンすべてにわたる第1層から第3層の都市の階級を表しています。

人口統計のバランスを取り、サンプルの構成が最新の国勢調査データに基づく成人人口の構成を反映するようにするために、加重が採用されています。

イプソスオンライン世論調査の精度は、信頼区間を使用して計算され、1,000件の世論調査では ± 3.5 パーセントポイント、500件の世論調査では ± 5.0 パーセントポイントの精度となります。イプソスによる信頼区間の使用に関する詳細については、イプソスのウェブサイトをご覧ください。

結果の合計が100にならない場合、または「差」が実際より ± 1 多い/少ないように見える場合は、四捨五入、複数の回答、または「わからない」または未回答の回答の除外が原因である可能性があります。

これらの調査結果の公表は現地の規則および規制に従います。



THANK YOU

CONTACT:

Teodros.Gebrekal@ipsos.com

VISIT:

ipsos.com